

全25点のうち15点を展示替。以下主なもの。

たかつき  
高杯

弥生時代後期から古墳時代前期前葉（紀元1世紀から3世紀頃）



木目の美しいヤマグワの木から彫りだされた脚台付きのうつわです。水銀朱を用いた顔料で赤く彩色しています。また、器の外面に花びら状の文様が彫刻されているので、「<sup>なべんたかつき</sup>花卉高杯」と呼ばれています。本品は脚台部を失っていますが、器部の花卉が6弁なので、脚部には12条のスリット（飾り孔）を施した脚台を伴っていたと考えられます。

だいつきおけ  
台付桶

弥生時代中期後葉（紀元前1世紀頃）



ヤマグワの木をくり抜いて製作された台付きの桶形容器です。蓋を伴って出土しました。平面形は舟形をしており、美しい弧を描く側面形が秀逸な作品です。容器と蓋の両端部には小さな穴が開いています。器の中に入れたものを大事に保管するため、紐で蓋を閉じていたのでしょう。また台の部分には両側面に各6本の透かし彫刻され、底面には2個一対の6組の突起が左右対称に付されています。